

1 主題名

「ありがとうの気持ち」 【B 感謝】

2 教材名

「きつねとぶどう」(教育出版)

3 主題と教材について

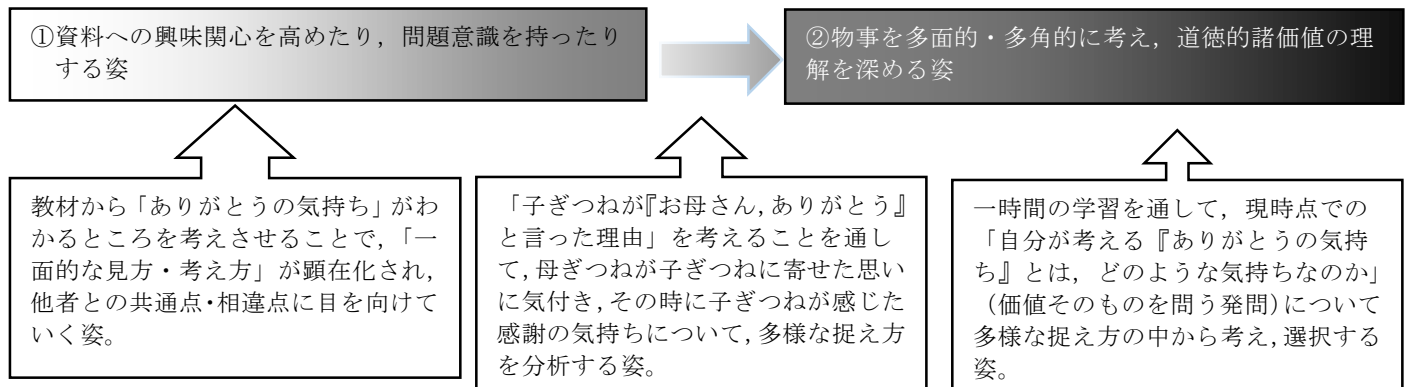
感謝の言葉は日常生活の中で当たり前のように口にされるが、言葉のみが先行し、思いが伴わないこともある。感謝の気持ちは、他者が自分のために寄せてくれた善意に気付き、どのような気持ちでしてくれているのかを知ることによって芽生え、育まれる。他者が自分に寄せてくれた善意や気持ちについて考え、そのときに自分が感じた感謝の気持ちについて改めて考えるようにすることが大切である。

本教材「きつねとぶどう」を用いる。「きつねとぶどう」の概略は以下の通りである。おなかをすかせた子ぎつねのために、母ぎつねがえさを取りに行く。巣の近くまで来たとき、猟師がいることに気付いた母ぎつねは、自分の身をかえりみず、子ぎつねを助きたい一心で大声をあげ、子ぎつねを逃がす。何年か経ち、子ぎつねは小さい頃住んでいた辺りでぶどうが実っているのを発見する。その意味に気付き、母に対する感謝の気持ちでいっぱいになる教材である。本時では、改めて日頃お世話になっている人々の行動や善意に着目することを通して、「感謝」について捉え直させたい。

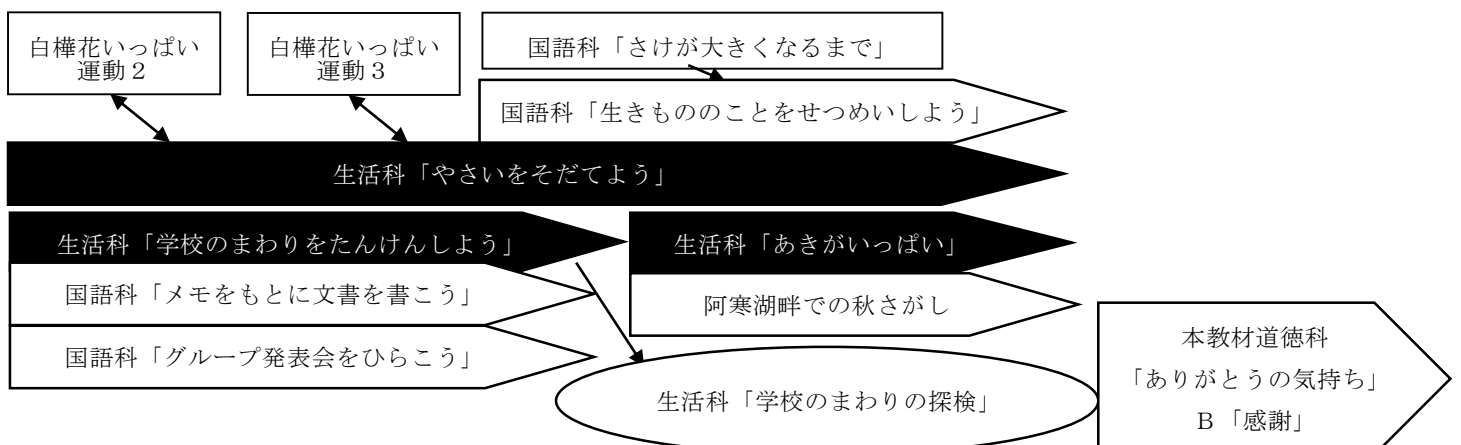
4 本時のねらい

「子ぎつねが『お母さん、ありがとう』と言った理由」を考え、他者の善意に気付くことを通して、「感謝の気持ち」について改めて考え、自己の生き方について考えを深めていくことができる。

5 本時において育みたい自律性と、働かせる「見方・考え方」

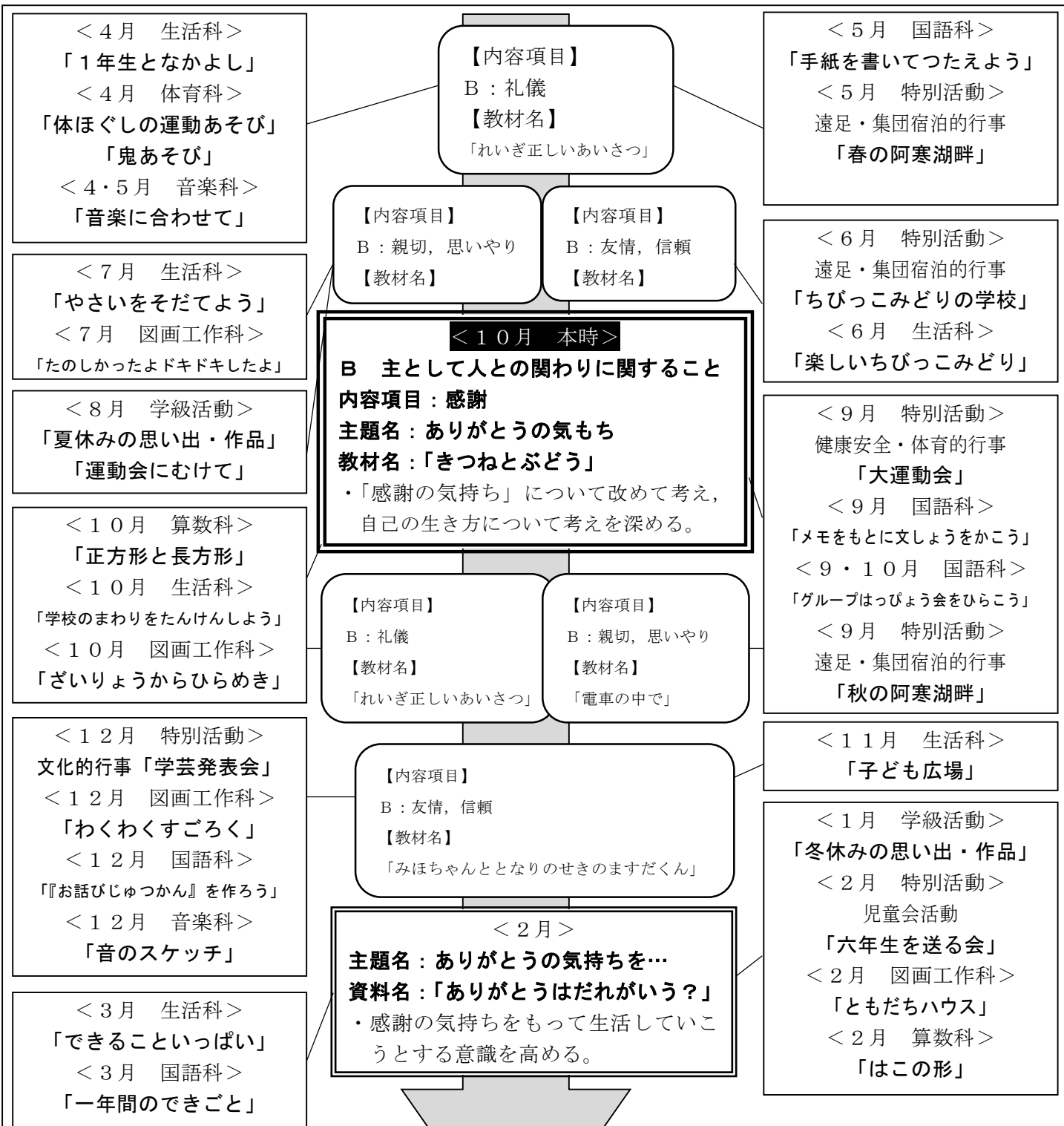


6 学級・学年経営年間プログラムとのかかわり



「やさいをそだてよう」「学校のまわりをたんけんしよう」では白樺台地区の人々、「あきがいっぱい」では阿寒の人々など、身近な人々に様々な面で協力していただいていることから、人々が児童に寄せてくれている善意や行動は数多くある。そのようなパッケージに道徳科を位置付けることで、子供が、人々の善意に気付き、自らの感謝の気持ちについて考えるきっかけをつくれるようにしていく。

7 学びの過程のデザイン～学級経営年間プログラムを基にした内容項目「感謝」との関連的指導



ありがとうの気持ちをもつ心

8 本時について

(1) 本時のねらい

「子ぎつねが『お母さん、ありがとう』と言った理由」を考え、他者の善意に気付くことを通して、「感謝の気持ち」について改めて考え、自己の生き方について考えを深めていくことができる。

(2) 一貫した主体的学びを「つなぐ」ために（個の内面化）

「多面的な見方・考え方」「多角的な見方・考え方」のうち、特に「多角的な見方・考え方」が高まった状態、すなわち何らかの選択・判断をしようとする「見方・考え方」が高まっている状況において、価値そのものを問う発問（「自分が考える『ありがとうの気持ち』とは、どのような気持ちなのか」）をし、個の内面化へとつなげる。

(3) 本時の展開

学習活動	主な働きかけ・手立て	【評価】 個に応じた指導（▲）
<p>1 どんな時に「ありがとう」と言うかについて、自分の経験を基に考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族が、ご飯を作ってくれた時 ・友達が優しくしてくれたり、遊んでくれたりした時 ・学校の先生が、困っていたら助けてくれた時 ・給食調理員さんが、給食を運んでくれた時 ・公務補さんが、学校をきれいにしてくれた時 ・ピアノの先生がピアノを優しく教えてくれた時 <p>2 「きつねとぶどう」の資料の読み聞かせを聞く。</p> <p>3 資料から「ありがとうの気持ち」がわかる場所を考える。</p> <p>4 「コーン、あぶない。」と大きな声で叫んだ時の母ぎつねの気持ちについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このままでは、子ぎつねが大変だ。 ・子ぎつねを助けたい。 ・早く逃げて。 ・自分が猟師に狙われるかも。 ・私がこの子の代わりに撃たれよう。 ・自分のことはどうなってもよいと考えているね。 ・自分のことより子ぎつねのことを大切にしているね。 ・お母さんの思いが子ぎつねの「ありがとう」につながるのかな。 	<p>【個の確立】</p> <p>□ 導入における「テーマの提示」として、どんな時に「ありがとう」と言うかについて考えさせる。経験的思考を働かせ、「感謝」という概念の面的な「見方・考え方」を発揮できるようにする。また、教材から「ありがとうの気持ち」がわかる場所を考えさせることで、自分の立場・立ち位置を明確にさせる。</p> <p>【見方・考え方を働かせる】</p> <p>□ 『「コーン、あぶない。」と大きな声で叫んだ母ぎつねの気持ち』について考えさせ、面的な「見方・考え方」が顕在化されることから、他者との共通点や相違点に目が向くようにする。</p> <p>□ なぜ、大声で叫んだのですか。（根拠）</p> <p>□ 母ぎつねが大声で叫んだら、猟師に気付かれてしまい危ないですね。（限定）</p> <p>□ 『「コーン、あぶない。」』は、「ありがとうの気持ち」とは関係ないですね。（限定）</p>	<p>【発言・道徳ノート】</p> <p>▲「ありがとうの気持ち」について考えながら読むことが難しいと判断した場合、「ありがとうの気持ち」に関わる場面で一度読み聞かせを止め、一問一答方式で場面について確認を行う。</p>
<p>5 子ぎつねが「お母さん、ありがとう」と言った理由について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんがぶどうをここまで運んでくれたからだよ。 ・僕を助けてくれたのだと思ったからだね。 ・お母さんは、僕を助けるために、亡くなっちゃったかもしれないと思ったからだね。 ・お母さんのおかげでお腹いっぱいになったからだね。 ・思い出の味がするからだよ。 ・「僕のためにありがとう」と思ったのだと思うよ。 ・「おかげで僕も大きく立派になったよ。」と思った。 ・「この木をお母さんだと思って大切にしよう。お母さんありがとう。」という気持ちからもあったのかな。 ・あの時、お母さんが助けてくれなかったら、僕はここにいないかもしれない。 ・今、僕が元気に過ごせるのはお母さんのおかげだね。 	<p>【見方・考え方を高める】</p> <p>□ 多様な捉え方に触れたりすることで、「多角的な見方・考え方（生き方についての見方・考え方）」へと高めていくことができるようにする。以下、必要に応じて、児童に問い返す。</p> <p>□ 子ぎつねは、母ぎつねに何かしてもらったのでしょうか。（焦点化）</p> <p>□ 子ぎつねは、何に気付いたのですか。（焦点化）</p> <p>□ 「ありがとう」と言っているけど、親が子供を助けるのは当たり前なのではないですか。（限定）</p> <p>□ 当たり前ではないのは、どうしてですか。（根拠）</p> <p>□ 親に助けをもらうだけでいいですか。（限定）</p> <p>□ 自分が考える「ありがとう」と最後に子ぎつねが言った「ありがとう」は同じでしょうか。（焦点化）</p> <p>□ 子ぎつねは、何に対してありがとうなのですか。（焦点化）</p>	<p>▲自分の考えが整理できない児童に対し、他の児童の発言の中から一番納得いくものを選択するよう促したり、組み合わせて考えるよう伝えたりする。</p>
<p>6 周囲の人々に対して、どのような「ありがとうの気持ち」が大切なのかについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分にしてくれたことを感じ取る「ありがとう」が大切だと思う。 ・相手の気持ちや行動をしっかりとわかって、「ありがとう」を伝えることかな。 ・「本当のありがとう」を心から言えることだね。 	<p>【個の内面化】</p> <p>□ 「これから」を問う発問（「家族やまわりの人に対して、どのような『ありがとうの気持ち』が大切だと思いますか」）をし、感謝の気持ちについて内面的思考を促す。ⅠⅡ</p>	<p>▲自分の考えが整理できない児童に対し、他の児童の発言の中から一番納得いくものを選択するよう促したり、組み合わせて考えるよう伝えたりする。</p>

